

平成30年度第2回

市民動物園会議

会 議 録

日 時：2019年1月15日（火）午後1時開会  
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

## 1. 開 会

○事務局（加藤円山動物園長） 昨年3月にホッキョクグマ館がオープンし、たくさんの方々にお越しいただいております。今のところ、前年を上回るようなペースです。正月三日は1日3,000人という、たくさんの方々に来ていただいております。今年は、いよいよゾウ舎がオープンしますし、これからご説明しますビジョン2050の策定、そのほか、4月に動物専門員を採用することによって、動物に携わる全ての職員が一般職にかわるという大きな転換期になります。引き続き、皆様方にはよろしく願いいたします。

本日は、会議終了後にゾウ舎に移動し、アジアゾウをごらんいただきたいと思っておりますので、お時間のある方は引き続きご出席をお願いいたします。

それでは、早速、議事に入ります。

以後の進行は金子議長をお願いいたします。

## 2. 議 事

○金子議長 皆さん、こんにちは。お寒い中、また、足元の悪い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから平成30年度第2回市民動物園会議を開催いたします。

今、園長からお話がありまして、今日は、結構重たいというか、大切な議題が幾つかありますので、できるだけ集中してコンパクトに行きたいと思っております。

まず、一つ目の議題は、札幌市円山動物園基本方針「ビジョン2050（案）」についてです。

こちらは、前々回、前回の市民動物園会議からも検討議題として上がっておりましたけれども、この市民動物園会議の下部組織といえますか、検討部会において検討を進めていただいていたものです。その後、札幌市の庁内の会議でも協議していただいて、資料にございますとおり、案として固まってきましたので、この基本方針の概要と今後のスケジュールについて説明をいただきたいと思っております。

○事務局（神経営管理課長） ビジョンの概要を説明する前に、私から、これまでの経過も含め、説明いたします。

資料1-2をごらんください。

基本方針のこれまでの経過と今後のスケジュールについてです。

まず最初に、これまでの経過です。

昨年4月の第1回市民動物園会議において基本方針について説明させていただきました。その後、動物園内で検討を進め、6月から10月ぐらいまで、円山動物園は環境局に所属しておりますが、その中でビジョンについていろいろな検討を重ねてまいりました。その後、10月に入りまして、関係部局が入った中での会議を経て、11月21日の市長・副市長会議で内容を説明し、了解が得られました。そして、12月11日、札幌市議会の総務委員会に報告し、審議をいただいております。今日は2回目の市民動物園会議ですが、

ここでご報告し、いろいろなご意見をいただきたいと思っております。

次に、今後のスケジュールについてです。

パブリックコメントという、市民の皆様からこのビジョンについていろいろなご意見をいただく手続になりますが、1月17日から2月17日まで、ご意見をいただき、今年3月下旬までにまとめたいと思っております。

今日、各委員の皆様からいただいたご議論につきましても、このパブリックコメントでいただいた市民の皆様の意見とあわせ、可能な修正をさせていただきたいと思っておりますので、忌憚のない意見をいただければと考えております。

それでは、概要について高橋調整担当係長から報告させていただきます。

○事務局（高橋調整担当係長） 私からビジョンの内容についてご説明いたします。

概要版の資料1-1①と本書の資料1-1②を用います。

まず、資料1-1①のA3判の概要版をもとにご説明いたします。

左側のはじめにをごらんください。

獣医療体制の強化や動物専門員の新設等、円山動物園の人員体制の変化、動物福祉や生物多様性の保全など、国内外の動物園を取り巻く環境や役割が前基本構想想定時から大きく変化しているなど、ビジョン2050の策定に至った背景についてまとめております。また、前回、八木委員からお話がありましたが、2050年が開園100年目であることも盛り込ませていただきました。

なお、このビジョン2050に基づく具体的な取り組みですが、平成31年度を初年度とする計画期間5年の実施計画を策定した上で推進したいと考えております。

次に、検討経過についてです。

資料1-1②をごらんください。

まず、39ページになります。

円山動物園職員プロジェクトで計21回の検討を重ね、また、ビジョン2050検討部会や市民動物園会議でも検討をいただけてきました。

次に、40ページをごらんください。

市民意見の反映に係る取り組みといたしまして、子どもや大人を対象としたワークショップを開催したほか、来園者アンケートや市民意識調査など、市民の意見を広く聴取し、ビジョンの検討を進めてまいりました。

それでは、内容に戻りますので、概要版のA3判の資料にお戻りください。

第2章の円山動物園が目指す未来についてです。

こちらには基本理念とそれに基づく取り組みを記載しております。

前回の資料では、保全と教育を基本理念としておりましたけれども、これらは、基本理念ではなく、取り組みではないかといった意見があったことから、基本理念としては、「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」とし、自然と人が共生する持続可能な社会の実現に貢献してまいります。また、リ・クリエーションや調査・研究については、今回は別

立てにしておりましたけれども、こういったものも重要であるとの意見があったことから、保全と教育、リ・クリエーション、調査・研究を同列の重点項目として整理し、概念図にありますとおり、葉も同じ大きさにそろえております。

続きまして、右ページをごらんください。

基本理念に基づく取り組みです。

重点項目である保全と教育について、円山動物園の具体的な取り組みの説明をさせていただきます。

いずれも、地球という世界的な視点と、円山周辺、札幌市、北海道といった地域の視点から整理しております。

保全の一つ目である地球規模の保全活動に貢献の具体的な取り組みといたしましては、左側の段の最初にございますとおり、野生動物の個体群を維持するため、第2の生息地として、生息域外保全に取り組んでまいります。例えば、ホッキョクグマなど、本来の生息地ではない動物を円山動物園で飼育し、それらを育て、ふやし、絶滅を回避する取り組みを言います。

また、飼育する動物の生息地の保全にかかわるため、真ん中の段の一番上にあります生息地の政府機関や動物園、大学等の研究機関との情報交換を積極的に行ってまいります。

次に、保全の二つ目である地域の環境保全環境を活性化する拠点についてですが、動物園が保存する知識や経験、集客力を生かし、環境保全活動の拡大、活性化に貢献するため、動物園の立地を生かし、円山エリア全体の生態系の保全に貢献してまいります。

また、真ん中の段の3段目にございますとおり、絶滅を回避するため、野生復帰を目指した希少種の飼育では、例えば、オオワシなど、希少動物を本来の生息地に野生復帰させるための飼育などにより、北海道の生物多様性の保全に貢献してまいります。

次に、重点項目の二つ目の教育についてです。

こちらについても、保全の取り組みと同様に、地球という世界的な視点と地域に分けて整理しております。

まず、教育の一つ目として、動物の飼育展示を通し、多様な野生動物が存在する地球環境のすばらしさ、そして生態系の重要性を伝えてまいります。また、動物園は、自然と市民をつなぐ大切な場として、真ん中の段の上から3段目ですが、市民が野生動物に親近感を持てるよう、狭いおりに閉じ込められているといった感情が湧かないよう、動物園の空間をできるだけ生息環境に近い状態で整備するなど、工夫してまいりたいと考えております。

次に、教育の二つ目として、動物園周辺施設や教育施設等と協力し、地域の環境教育の拠点を目指します。

左側の段の最初にあるとおり、生命を実感し、豊かな感性を育んでもらう生きた動物を展示する博物館としての役割を果たしてまいります。また、右側の段の最初にあるとおり、学校教育で活用できる教育プログラムを新たに開発してまいります。

続きまして、裏面をごらんください。

調査・研究では、大学などの研究機関等と協力して、動物のこゝと、環境のこゝとを探求してまいります。また、真ん中の段の一番上にあるとおり、職員の主体的な調査・研究の企画、立案、実行を推奨するとともに、新たな人材育成にも力を入れてまいります。

次に、リ・クリエーションの取り組みについてです。

動物たちの生き生きとした姿を通して元気を回復してもらう場を提供するとともに、職員のみならず、売店など、動物園にかかわる一人一人がおもてなしの心を持って接するなど、より楽しく、心地よい空間づくりに努めてまいります。

次に、2の取組の根幹の動物福祉についてです。

これまでお話しいたしました保全、教育、調査・研究、リ・クリエーションの取り組みを進める上でも根幹になる取り組みとして動物福祉を置いております。動物福祉の配慮ですが、動物福祉は、動物を飼育、展示する者の責務と考えております。動物たちが健康で栄養状態もよく、安全で野生本来の行動ができるよう、動物福祉に最大限配慮してまいります。

また、左側の一番下にあるとおり、大規模災害など、不測の事態においても動物たちが安全で安心して暮らせるよう、日ごろから備えてまいります。

次に、3の連携ですが、保全、教育、調査研究の取り組みは動物園のみでは実施することはできません。市民や民間団体など、さまざまな人たちと連携・協力し、ともに学び、ともに考え、ともに成長してまいります。

続きまして、右のページをごらんください。

基本理念を実現するための基盤ですが、飼育展示していく動物種の考え方、経営基盤、行動指針の三つの視点から整理いたしました。

まず、飼育展示していく動物種の考え方についてです。

現在、動物園の展示に当たっては、動物園生まれの動物が前提となっております。動物たちの健全な発育には、遺伝子の多様性のほか、動物福祉にも十分配慮する必要があります。また、繁殖に長期計画が必要です。このため、今後、飼育、展示していく動物種の方向性をあらかじめ決めておく必要があります。これまで、円山動物園としてそういった方向性を明確に示していなかったことから、このビジョンで考え方を整理したいと考えております。

飼育、展示していく動物種の方向性を考える上での観点と分類ですが、飼育、展示する動物種の方向性を円山動物園で飼育展示する意義、円山動物園で飼育展示していくために必要な条件の観点から考察し、積極的に繁殖に取り組む種、状況に応じて繁殖に取り組む種、やむを得ず飼育を断念する種に分類いたします。この考え方に基きまして、各動物種を具体的にどの分類に位置づけるかは円山動物園において整理することとし、ビジョン2050の策定後、できるだけ時間を置かずに公表したいと考えております。

また、この分類につきましては、飼育スペースや資金、職員の人員等、さまざまな条件

が前提となりますので、定期的に見直しを行いたいと考えております。

次に、経営基盤についてです。

経営基盤については、人材、持続可能な経営の考え方、運営への市民参画の推進の三つで整理しております。

一つ目の人材ですが、獣医療の臨床に適性のある獣医師を継続的に確保できる体制づくり、長期的視点を持って一貫して動物園の運営を行うことができる環境づくりを目指してまいります。

二つ目の持続可能な経営の考え方ですが、より効率的な動物園運営を行っていくとともに、入園料の見直しや減免制度のあり方など、受益者負担の適正化の検討を進めてまいります。

三つ目の運営への市民参画の推進ですが、保全の取り組みや動物福祉の充実に係る施設整備など、市民が貢献できる仕組みづくり、また、動物園条例の制定の意義や必要性などについて検討を進めてまいりたいと考えております。

最後に、3の行動指針についてです。

動物園で働く全てのスタッフが、動物や環境、社会のために自分に何ができるのかを考え、行動していくための指針をまとめました。

以上でビジョン2050の概要説明とさせていただきます。

○事務局（神経営管理課長） 1点補足させていただきます。

第4章の基本理念を実現するための基盤の一つ目の飼育展示していく動物種の考え方についてです。

前回、この会議ではコレクションプランという言い方をしておりました。このコレクションプランという言葉は博物館などではよく使われておりますが、動物園で使うと物を集めているような冷たい印象を与えてしまうという意見があり、基本方針では飼育展示していく動物種の考え方としております。

なお、具体的にどういったものを繁殖していくのか、繁殖を継続していくのかについてはこのビジョンができた後に出していきたいと思っており、この基本方針の中ではあくまでも考え方をお示ししております。

○金子議長 非常に重みのあるといたしますか、かなり多い分量をまとめていただき、本当にどうもありがとうございました。

まとめるに当たっては、先ほどもご紹介しましたけれども、検討部会が中心になって原案をつくっております。その部会では吉中委員が部会長でしたが、吉中委員から補足することはありますか。

○吉中委員 今ご説明いただいたので、私から特に補足することはありませんが、検討部会にかかわらせていただいて、私も大変勉強になりました。

動物園会議の後、検討部会を1度行い、その後、札幌市の中で作業をしていただき、このようにまとめていただきました。検討部会では、ある意味、クローズドなどといいますか、

限られたメンバーで細かく見てきましたので、視野がだんだんと狭くなり、検討部会としてはわかっているのだけれども、外の人に本当にわかりやすくなっているのだろうかという視点が欠けていたのかなと思います。そこを前回の市民動物園会議でご指摘をいただいて、さらに市役所の中でもんでいただいて、非常にバランスよくまとまったのではないかと感謝しております。大変なご苦勞をされたと思いますけれども、本当にどうもありがとうございます。

ただ、検討部会の副会長を務めていただいた福井先生から、獣医診療のあり方について、積極的に向上させていくというようなことを書き込めないかという個別の意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきたいと思います。

具体的に言いますと、35ページの行動指針のところです。

ここには、動物園で働いていらっしゃる方々一人一人がこういうことに気をつけ、心がけ、それぞれが切磋琢磨しながら技術を磨いていこうということが書かれていますけれども、それは、一人一人の努力だけに頼るのではなく、制度として、あるいは、動物園といえますか、市役所の体制として人材育成をもっと進めていくという書きぶりにできないかということです。先ほど動物専門員が配置されるということがありましたけれども、獣医の方についても、動物園でやるべき獣医活動の研さんを個人個人が高めるとともに、園として、技術の伸展というのでしょうか、深化を進めるような仕組みをどこかに書けないだろうかというご意見です。

例えば、22ページの調査・研究の技術を磨くというところに少し書かれていますのですが、獣医について、動物園獣医師は動物園専門員に並ぶ水準を目指すべきだ、さらに、動物園獣医師は、野生生物の診療という面でもさらに研さんを進め、日本野生動物医学会の専門医を目指し、それを園や市役所としても支援する仕組みはできないだろうかというようなことです。

一人一人の職員の努力を支える体制づくりや仕組みづくり、あるいは、予算確保にさらに頑張っていたら、このビジョンがまさに生きたものになっていくのではないかと私も思っております。

大変なご苦勞をされ、ここまでまとめていただいたことに感謝申し上げます。

○金子議長 福井副会長からのご意見も市民動物園の会議のご意見とあわせて事務局にお伝えいたします。

先ほど神課長から今後のスケジュールについてお話がありましたけれども、この後、17日から2月17日までの32日間、パブリックコメントということで、市民の皆様から意見を頂戴することになります。今日もいろいろと議論をさせていただくわけですが、そのほかにもございましたら事務局にお寄せいたしまして、パブリックコメントの意見とあわせ、市民動物園会議のご意見としてご検討をいただくことになるかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、20分ぐらいの時間で基本方針「ビジョン2050」についてご検討いただ

きたいと思いますが、膨大な量ですので、資料 1 - 1 の①をメインに見ていただきたいと思います。

これにはページ数を振っていただいております、はじめにですと本章の 9 ページですとありますので、横並びで見いただければと思います。

それでは最初に、表紙の裏の本編の目次をごらんください。

これを見ますと、この基本方針自体は 5 章に分かれていることがわかります。まず、第 1 章は、はじめにということで、動物園の歴史や今日の役割、現状と課題、ビジョン 2050 の策定と位置づけについて記載されております。次に、第 2 章は、円山動物園が目指す未来ということで、動物園の基本理念、基本理念に基づく取り組み、取り組みの概念図となっておりまして、こちらが A 3 判の資料 1 - 1 ①に要約されているわけです。次に、第 3 章は、基本理念に基づく取り組みとして、重点項目として、保全、教育、調査・研究、リ・クリエーション、そして、取組の根幹として動物福祉、連携という 3 項目が挙がっております。次に、第 4 章は、基本理念を実現するための基盤ということで、飼育展示していく動物種の考え方が初めにあります。こちらは、神課長からお話がありましたとおり、コレクションプランという名前から変え、概要が記載されております。このほか、経営基盤、行動指針があります。最後に、第 5 章は検討経過となっております。このような四十数ページの大作です。

では、1 章ごとにご意見をいただきたいと思います。

資料 1 - 1 の①に戻りまして、1 ページから 10 ページまでのはじめにのところです。

概要は、本章の 9 ページと 10 ページです。

内容としましては、札幌市まちづくり戦略ビジョンをベースに、札幌市環境基本条例、第 2 次札幌市環境基本計画、生物多様性さっぽろビジョン、札幌市環境教育・環境学習基本方針との整合性をとりながら、円山動物園基本方針を作成したということです。また、開園から 100 年目を迎える 2050 年を目標年次とするということで、2050 年までのかなりの長期のビジョンですよということが記載されているわけですが、いかがでしょうか。

○森田委員 冊子の 5 ページに書いてあることで、第 4 章の繁殖の関係と類似しますけれども、今日の動物園に求められているものというところが大事な箇所かなと思います。

私も委員になってまだ 1 年ちょっとですので、素人で本当におこがましいのですが、今までの動物園は展示、飼育が中心だったと思います。しかし、これからは世界的に自然環境がかなり厳しくなる中で、動物園にはもっと重要な役割が求められてくるのではないかと考えています。それは、繁殖の関係であります。

動物園は展示、飼育が中心であったのではないかとと思いますが、これからは動物園も繁殖に力を入れることが必要ではないかと考えています。なおかつ、来年はオリンピックが開かれますので、全世界から観光客が来ます。そのため、円山動物園の特色を検討していただけて集客をふやすことも求められると思います。



そういう意味では、5ページの今日の動物園に求められているものというのは市民としてもしっかり受けとめなければなりませんし、第4章の寿命や国内外での飼育頭数などを踏まえた将来的な飼育、繁殖、維持の可能性に結びついていくのではないかと思います。

ですから、これからは動物園としてもそういうことを考えることが重要だと思いますし、経営を維持するためのビジョンづくりや専門家になっていく動物園づくりについて、市民としても協力、協働しながら、かつ、そうしたことがわかりやすいような動物園からの発信もお願いしたいと思います。

これは、大変すばらしく、高度なものですが、全体を見たときに私が感じたのはそこです。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 先ほど申し忘れましたが、4ページにSDGsとあります。これは、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標ですが、こうした全世界が目指す目標が決められたわけです。そこで、動物園の目標や目指す姿についてもSDGsを考えながら進めていきたいと思いますということがかなり強く書いてあります。

例えば、10ページの真ん中辺の持続可能な開発目標については、円山動物園においても、17の目標のうち、生物多様性の損失の阻止を目指す「15陸上資源」を筆頭に云々とあり、SDGsを実現していこうということも一つの大きな柱になっております。

続きまして、第2章に移ります。

第2章は、円山動物園が目指す未来です。

今、森田委員からご指摘のあったことにも関連しますが、高橋係長からお話がありましたように、基本理念の中で保全、教育、調査・研究、リ・クリエーションという四つの柱があり、その根幹に動物福祉を据えたというこみとで、木の絵があるわけです。また、この絵の保全と教育の間にありますが、地球と地域をつないでいくのだというようなことを基本方針としております。そして、基本理念としては、「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」を挙げております。

ここは非常に短く、2ページですが、基本構想の根幹をなすところですので、ぜひご質問やご意見をお願いしたいと思います。

○高井副議長 二つあります。

一つ目は、12ページの概念図についてです。

ここは、基本理念の重点項目の非常に重要なところなので、キーワードをもう少しきちんと入れ込んだほうがいいのではないかと思います。

具体的には、リ・クリエーションの横にある「関係部局」です。動物園にとっては動物園の関係部局ということで自明ですが、一般市民としては何かがわからないので、「行政機関」としたほうがよいのではないかと思います。

それから、調査・研究のところに「民間企業」とありますが、これをリ・クリエーションの「関係部局」の下に置いて、場合によっては、売店やイベント、広報や交通機関について、民間企業と行政機関で協力しながらリ・クリエーションをするようにしてはいかかと思えます。

また、動物福祉の下に重要なキーワードとして「生息地」を入れるべきできないかと思えます。

それ以外にも、基本理念の重点項目にあるキーワードがあれば、ここにしっかり入れるということを提案したいと思えます。

二つ目は、15ページから16ページにかけてです。

結論から言うと、15ページのアと16ページのイについて、円山動物園ではないとできない、よその動物園にはない取り組みを強調したほうがいいのではないかということです。

具体的には、アの円山動物園周辺の生物多様性の保全にかえて、例えば、都市の環境と自然環境の保全、あるいは、都市の環境と自然環境の共存などです。円山動物園は、ほかの動物園と違い、都市にあって、かつ、森があるということを強調するとよいのではないかと思えます。

それから、16ページのイは、北海道・札幌市の生物多様性の保全ではなく、寒冷地の人間社会と生物多様性としてはどうかということです。上野動物園や天王寺動物園ではなく、円山動物園なのだ、それは、場合によっては、アメリカ北部やヨーロッパの寒冷地における動物園展示の一つの範を示すのだということを強調するとよいのではないかと思えました。

第3章についても言ってしまいましたが、以上です。

○金子議長 今、高井副議長がお話になった概念図がすごく大切で、例えば、パンフレットをつくる時や動物園が市に予算要求するときにこの絵が必ずくっついていくのではないかと思えます。ここに書いています、この関係ですということで説明されるとわかりやすいのではないかと思えますので、できるだけキーワードになるものについては具体的に記載されていけばいいなと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

○吉中委員 高井副議長が今おっしゃったことはごもっともだと思います。

ただ、概念図について、どうすればいいかという解決策はないのですが、「民間企業」をどこに置くか、「行政機関」をどこに置くかはなかなか悩ましかったところです。リ・クリエーションにおいて民間企業が活躍していただける場はいっぱいあるのですが、一方で、調査・研究にも民間の資金やノウハウを活用できますし、保全や教育などでも活躍の場があるので、どこに置けばいいのかということがあります。

また、生息地というキーワードを入れてはいいのではないかというご意見については全くそのとおりだと思います。ただ、これはむしろ動物福祉より保全に近いところに置いた

ほうがじっくりくるのかなという気もしております。

先ほど、森田委員から、動物園の今後の目指す姿として、飼育、繁殖をしっかりとすべきだという意見がありましたし、一方で生息地の環境保全に動物園としても積極的に取り組んでいくべきだということがありました。この両方をバランスよく推進していくべきだと思います。ただ、そういう生息地保全というキーワードがどこかに入ればよいなと思います。

○金子議長 「地球」の下に持ってくるというのはいかがでしょうか。事務局でもご検討いただければと思います。

次に、第3章に移ります。

第3章は、13ページから29ページまでと、かなりボリュームのあるところです。

先ほど高井副議長からお話しされたことも踏まえ、ご意見やご質問をお願いできればと思います。

○高井副議長 先ほどは、15ページと17ページのタイトルを変えて、円山動物園らしさを出したほうがいいのではないかとということです。

追加で申し上げると、14ページ、15ページ、16ページのキーワードです。これをより円山動物園の取り組みを強調するものとし、事例は括弧でくくったほうがいいのではないかとということです。

例えば、14ページの「森林伐採による影響」については、「寒冷地エネルギーの工夫（木材資源の活用）」とするのです。また、15ページの「円山動物園の周辺環境」については、「都市と自然の共生（動物園の森）」とし、「ニホンザリガニ」については、「日本固有種の保全（ニホンザリガニ）」とし、16ページでは、「北海道の寒冷地野生動物の復元（オオワシ）」の日本固有のとするのです。つまり、ヒグマのところのようにするということです。

今後、円山動物園が売りにしていく、あるいは、よそと違うというキーワードをしっかりと強調して、後で参照しやすくするといいいのではないかと思います。

○金子議長 大切な視点かと思えます。

前回から大きく変わったところは、4本柱にしたことです。

概念図について、高橋係長は葉っぱの大きさは同じだと言われましたけれども、字の大きさはちょっと違いますよね。

最初は保全と教育がメインでしたが、動物園の役割として、調査・研究とリ・クリエーションも重要だろうということで入りました。この「リ・クリエーション」も工夫して、「レクリエーション」とするのではなく、「リ・クリエーション」という言葉で表現し、単なる楽しみだけではないという意味をこの言葉の中に入れていくということです。

また、それぞれの柱に組み込みの方針が重点項目として挙がっていることについてはよろしいでしょうか。

○武田委員 くだらない話かもしれませんが、前回から思っていたことがあります。

これを私や子どもたちが見たとき、外部機関の「国や北海道」や「学校」が丸から少し飛び出ているのが寂しいというか、薄い感じに見えますので、可能だったら丸の中に入れてほしいなということです。

また、葉っぱに関係する鳥や虫など、シルエットだけでもいいので入っていると、華やかで目を引くのかなと思います。

たくさん機関がかかわって動物園を支えているということなのですが、文字が飛び出ているところを囲ってもらえたらということです。可能だったらお願いします。

○金子議長 この概念図はとても重要なところだと思いますので、デザイン的なことで少し工夫ができればと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 些末な話ですが、円山動物園の強みを生かすところとして、20ページあたりに、都心であることを示すため、札幌市の地下鉄の路線図みたいなもの、あるいは、主な小学校を点で振るなどはいかがでしょうか。

というのは、円山動物園は主な小学校から30分で来られるところにあるのではないかなと思うのです。そんな動物園は全国にもそんなにないわけです。このように、なぜ円山動物園が教育として全国の中でも重要なのかを示すものを入れるだけで訴求力が違ってくると思います。

それは、交通機関30分圏内に小学校40と入れるのもいいですし、地図で地下鉄路線図を出して、こんなど真ん中にあることを示すなどです。あるいは、周りに小学校や中学校がこれだけある、大学もあるし獣医病院もあるなど、そういうことを示せるといいのかなと思いました。

○金子議長 円山らしさをこの中にうまく盛り込んでいただきたいというご意見かと思います。

4本柱のほかに、25ページから29ページとなりますが、取り組みの根幹として動物福祉、連携ということで、項目の二つ目と三つ目がありますけれども、こちらについてはいかがでしょうか。

先ほど連携について武田委員からお話がありましたけれども、連携のところがはみ出ているということでした。また、国や北海道というところについては連携してやりますという1行があるだけなので、少し寂しいかなという気がしますね。

これは、基本計画やこの後に来るいろいろな計画の中で具体的になってくるとは思いますが、ご意見等があればお願いしたいと思います。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、もし何かありましたら最後をお願いしたいと思います。

続きまして、30ページから37ページまでの第4章の基本理念を実現するための基盤についてでして、飼育展示をしていく動物種の考え方から始まり、経営基盤、行動指針とあります。

繰り返しになりますけれども、コレクションプランとして具体的に書いていたところですが、概要的なもの書き方を変え、どういうふうを考えていくかということについて記載しております、ここは大分変わったところです。さらに、経営や条例についても記載されておりますので、ご質問等をお願いできればと思います。

○事務局（加藤円山動物園長） 補足いたします。

動物種の考え方についてです。

このビジョン2050は2050年まで進んでいきますが、その時々施設の整備の状況や動物の福祉の考え方が変わっていくので、2050年まで同じで行くものではありません。そのため、定期的に見直しをするという意味から具体的な動物の話をするのはやめたわけでして、決してトーンダウンしたわけではないということです。つまり、年数的な整理の中で考え方を示しております。

○金子議長 第4章についてはいかがでしょうか。

○高井副議長 三つあります。

まず、1の飼育展示していく動物種の考え方についてです。

吉中委員が最初につくられた案の中で非常によいと思っていたキーワードが今回削られていて、できたらもう一回検討していただけたらと思ったことがあります。一つは生育外保全で、もう一つは、アンブレラ種、フラッグシップ種です。

まず、生息域外についてです。札幌市において、動物種の選び方を考えるとき、市民にもちゃんと説明すべきだと思いますし、域外でしか保全ができない、あるいは、代替生息地として動物園を考えなければいけないという新しい概念は説明したほうがわかりやすいのではないかと思います。

それから、アンブレラ種とフラッグシップ種についてです。動物園の主な動物はアンブレラ種とフラッグシップ種なのだという書き方だったわけですが、円山動物園の現状を考えると、アムールトラやカバ、ライオン等の高齢動物のアンブレラ種やフラッグシップ種の後をどうするのかを考えたとき、生物保全や生物多様性の考え方からすると、アンブレラ種だけが重要ではないのだ、これ以外も重要なのだということをごどこかに書いておいたほうが良いと思うのです。

これについては、種のところに書くか、あるいは、22ページのセンターラボの横、つまり、爬虫類でそのようなものでやられているのは何じゃ、これはと市民の人は思うかもしれないけれども、生物保全のためには、フラッグシップ種やアンブレラ種ではない爬虫類も繁殖や保全をすることが非常に重要で、だからこそセンターラボが重要なのだということになるわけで、この説明をごどこかにと思うのです。私の考えでは、30ページか、22ページのセンターラボの横に置いたほうが良いのではないかと思います。

二つ目は、様式の問題ですが、33ページの経営基盤についてです。

(1)に「人材」とありますが、「人材と施設」としたほうが良いのではないかと思います。というのは、第3段落では施設の話になっていますので、人材の後に施設が出

てくると内容と見出しが合わないということです。

さらに、36ページの(5)のチームワークを人材の第3段落に入れたほうがいいのではないかとということです。専門員、獣医師でチームワークというふうに経営基盤の人材にまとめたほうがよいのではないかと思います。

最後に、3の行動指針についてですが、第1章の基本理念の6点をもう一回示すように項目を直したほうがいいのではないかとということです。つまり、重点項目の六つの保全、教育はいいですが、3はリ・クリエーションのことを言っているらしいのですが、そうは言っていないわけです。そのため、リ・クリエーションのために、あるいは、心地よく過ごしていくための間に括弧して、リ・クリエーションとするのです。

次に、動物福祉はいいのですね。ただ、重点項目のうちの調査・研究と連携が抜けており、チームワークがかわりに入っているのですね。つまり、2の経営基盤の人材のほうに持っていったほうがいいのではないかと申し上げたのはそれで、かわりに調査・研究でこれこれをします、連携でこれこれをしますというものを入れたほうがいいということです。

こうすることで、第1章で宣言し、その行動を示すということで、締めくくりとしてはいいのではないかと思います。

○金子議長　そういうふうにしたほうが流れとしてもわかりやすさとしてもいいかなという気がします。

ほかにいかがでしょうか。

○土田委員　第4章の飼育展示していく動物種の考え方についてです。

今、円山動物園で何種類の動物が飼育、展示されているのか、数字が頭に入っておりませんが、今後、2050年に向けて種類がどんどんふえていくのか、多いほうがお客様の観点からするといいのだろーと思いたすけれども、動物福祉を重視していくことも非常に重要な根源として触れていらっしゃるわけです。そういうふうにと考えると、余り多くせず、ある程度絞って工夫して見せていくというか、そうした質の担保について、こういうところで表現が可能かどうかをお聞きしたいと思いたす。

また、高井副議長がおっしゃったように、札幌、北海道にある動物園として、ペンギンやアザラシなど、個人的にはこの円山動物園は充実してもらしさが出るのかなと思いたす。雪国の中で動物の生き生きとしたシーンを見せるということですね。というのは、特に冬場は外国の方も多いので、そういう観点を強調してもいいのかなと思いたすが、そこまで踏み込んで表現しないほうがいいのかどうかをお聞きいたします。

○事務局(加藤円山動物園長)　ちなみに、動物種は約170種、900点です。半分ぐらいは、爬虫類など、小さい動物です。

次に、具体的には今後どうなっていくかです。

多分、種類がふえていくことはないと思いたす。それはなぜかという、前のほうにもありますけれども、動物園動物は、動物園や水族館の中で繁殖した動物が飼育、展示されていきます。日本の中を見ますと、今、それぞれの動物園で飼育、展示している動物が繁

殖しているかという、そうではなく、どんどん高齢化して行って、今の動物がいなくなったら次が入らないという状況で、それはますます厳しくなっています。

今回はたまたまゾウがうまく導入できましたが、いろいろな制約から海外から新しい動物を入れることは難しくなっています。そこで、動物園や水族館が協力しながら、今いる動物たちをちゃんと繁殖させ、国内でいかに動物種を維持していくかということになります。ですから、この先、物理的にも少なくなっていくでしょうし、福祉を考え、施設の規模を広げていくことになると、全部をそのまま維持するのは難しいので、方向性としてはそうなると思うと思います。

○事務局（小管環境局参与） 今、園長から説明しましたが、海外から動物を入れるといってもかなりの制約があり、E E Pなんかもありまして、特にヨーロッパからはアジアに余り出しません。そうすると、動物園友好国から入れるしかないのです。ですから、基本は、園長が言ったとおり、国内で展示動物をどう維持するかです。

要するに、自然界の種の保存と同時に、動物園の展示動物の保存もしっかり行っていかなければならないということです。それで、今、日動水協では、そういう考え方から、園単独で何かをやるのではなく、協会のみんで協力し、遺伝的な多様性を維持しながら次の世代へ引き継いでいこうということが取り組まれております。

その中、円山動物園のオリジナリティーを出すのはなかなか難しいわけです。そこで、地域の動物、ここで言えば、ザリガニやオオワシなど、そういうものこそ、円山動物園ではほかの園館よりも秀でて行っていかなければならないわけで、それ以外の熱帯系展示動物などに関しては全国の飼育状況に影響されてしまう状況なのです。

また、土田委員がおっしゃったように、北方系の動物について力を入れていきしょうかというのは、この中で議論されるべきかと思えます。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） 円山動物園では中本委員のような年代のお客様がすごく少ないので、ぜひ意見を聞きたいです。

○中本委員 円山動物園に限らず、動物園は、市民からすると動物を展示している場所と言う印象が強く、研究などに取り組んでいるというのは、よほど興味がある人ではないとわからないことだと思います。

何の動物を展示するのかという考え方は市民にとって一番興味があるところですが、積極的に繁殖に取り組む種、状況に応じて繁殖に取り組む種、やむを得ず繁殖を断念する種に分けられていることはわかったのですが、例えば、ホッキョクグマをどうして展示しているのかということがあったと思いますが、何でこの動物なのか、動物園としてどうしてこの動物を取り入れ、市民に見てほしかったのかなど、そうした動物種の選び方をされている一面があると思うので、そういうことも書かれているとわかりやすいなと思いました。

○事務局（加藤円山動物園長） 詳しく説明すると、ここの中では考え方を示します。これに基づいて、どういう動物を積極的に繁殖するか、残念だけれども、将来やめなければ

いけないというのは次の段階になります。ですから、これが決定になった後に整理し、発表することになります。そのときには、それはなぜかということをお伝えすることになります。

ほかに全般的にどうですか。

一番少ないお客さんの層で、いろいろ聞くチャンスがないものですから。

○金子議長 どうやったら若い人がやってくるかですね。

○事務局（加藤円山動物園長） 一般的には、子どもが小さいときには来ていただけるのですが、なかなか中間層はなく、またお孫さんができたら来ていただいているという傾向があります。そういう数字もなくはありません。

○森田委員 私も子育てで井之頭や上野などに小さいころに行きましたが、小さいうちに見せておき、あなたぐらいの年齢になって興味が出る人がいるのです。

また、これは極論ではありませんが、目玉の動物がいるかどうかです。これは都会の動物園の傾向ですが、円山動物園には環境のよさがあるので、それをどんどんPRしてもいいと思うのです。

また、世界全体のことを発することにも触れていいのではないかと思います。この間、NHKの番組を見ましたが、ああいうものが出てくると、若い人たちも、円山動物園もそうして飼育を行っていたのだけれども、これからの地球のことも考えて、繁殖にも取り組んでいると思えるということです。これからは地球のことを考えてということを市が発信していけば子どもたちも興味が出てくるし、大学や高校など、教育機関が充実していますので、そういうところをターゲットにしてはどうかと思うのです。

こういう地道な努力をして、その方たちが大人になり、結婚して、お子さんができたときにはほとんどの人が円山動物園に来ます。こういう経営の考え方や施設整備も考えていけると思うのです。

ですから、魅力のある、夢のあることも一つなのです。一般市民は、飼育員の皆さんもご努力していますけれども、楽しくという部分も必要なのです。それも外さないで、今言ったような動物福祉です。動物福祉は充実していかないと大変なことになりますので、大変つらいかもしれませんが、両方を見ていただければと思います。

○金子議長 園長からご指摘がありましたが、若者をどういうふうに動物園へ呼んでくるかは中本委員の宿題ですね。大学の学生をどうやってここに連れてくるか、プロジェクトをつくって、提案してもらってもいいですね。

地域として動物園と隣接するというところで、ほかにいかがでしょうか。

○矢野委員 章にかかわらず、全体的なことを申し上げたいと思います。

この間、第1回ニホンザリガニ円山会議があり、本田さんがやられていましたよね。ゾウなど、大型哺乳類に目が行くのですが、新品の冷蔵庫を1台買ってもらえたということで、昆虫や爬虫類にも目を向けてもらいたいなと思います。予算は限られています、生物の底辺に位置するものです。ザリガニは何十億年前から棲んでいるそうです。



子どものころ、ホテルやザリガニはこの河川にもいて、都市化していないときでしたが、ホテルが物すごくきれいだったのです。ザリガニも、ばあさんがとってきて、ゆでて、食べた記憶があります。真っ赤になるのです。都市化の影響で水質が悪化して、特に車がふえて、油が円山川に入ってきたようです。こういうふうにして環境が悪化してきたのです。

ニホンザリガニの第1回会議だったのですが、これからも開いていただいて、特に小学校や中学校の教材としてはもってこいのものだと思います。

○金子議長 それでは、時間が大分過ぎてしまいましたので、次に移ります。

第5章は、これまでの経過でして、どのように策定されてきたかが書かれております。何かあればお願いしたいと思います。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、基本方針「ビジョン2050」について、市民動物園会議として意見は出し、審議を了したとさせていただきます。ここでいただきましたさまざまな意見は事務局にお渡ししますので、ご検討いただいて、パブリックコメントとあわせ、中に入れていただくことをお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○後山委員 気になったのは元号についてです。

これは西暦になっていますが、資料の中では元号だけになっているところがあるのです。2050年となると、あと1回ぐらい元号が変わるのではないかと思いますし、これは今後も直していくのでしょうか。札幌市なので、元号としないといけないとは思いますが、ご検討されたいのかと思います。

○金子議長 それでは、ほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 先ほど中本委員から話もありましたけれども、売りを出すとしたら、円山動物園で行っている生態別展示は強調しなくていいですかということです。

もしそれをするとしたら、25ページにある環境エンリッチメントです。恐らく、あえて触れていないのでしょうかけれども、小管参与がよくご存じの行動展示です。環境エンリッチメントと行動展示はどう違うのか、さらに、円山動物園が行っている生態別展示とどう違うのかをちょっとでも書いていただくと、円山動物園の独自性を生かすときのキーワードになると思った次第です。

○事務局(小管環境局参与) 環境エンリッチメントと行動展示はまさに裏表で、環境エンリッチメントを行うことで動物たちの暮らしを充実させていくという面があり、その魅力的な行動をお客様に見ていただくのが行動展示ということです。

ですから、動物を中心に、動物の福祉を考えて、生き生きと暮らしてもらおうという手法が環境エンリッチメントでして、お客さん側から見ると、動物が生き生きと暮らしているように見えるということです。ですから、乖離は全くないわけです。

つまり、環境エンリッチメントを行うことによってお客様としてさまざまな動物の行動

パターンが見られ、魅力的な展示につながるというような一言を入れておけば、もしかしたら理解されるのかもしれませんが。

また、生態系展示についてです。

ホッキョクグマはそうですが、ゾウについても、生態系を意識してもらえりような展示をしていますから、あれも一部では取り入れているわけです。次は北海道のという話をしていたかはわかりませんが、北海道の環境に特化した動物群を考えていこうというのはこの後に計画を持っていますので、いずれも円山動物園が生態的展示を放棄すると言っているわけではありません。種だけの展示に見えるかもしれませんが、環境に配慮した展示になると考えております。○高井副議長 キーワードを入れておくといいですねということです。

○金子議長 それでは、議題1については終了とさせていただきます。

続きまして、議題2のゾウの愛称の候補の選定についてです。

○事務局（寺島飼育総括係長） アジアゾウの命名について説明させていただきます。

A4判表裏の資料2をごらんください。

1ですが、昨年11月30日にミャンマーからアジアゾウ4頭が来園し、現在、トレーニングを行っており、今年の春に公開予定となっております。

次に、2の個体情報ですが、現地での名前があります。

雌の15歳は、愛称パールモーで、真珠の雨という意味です。雌の27歳である母ゾウは、愛称シュティンヌで、しとやかなという意味です。母ゾウの子である雌の5歳、愛称はニインスグェソーで、温和という意味です。雄の10歳、愛称はシーシュエティで、金という意味です。

別添資料として愛称候補募集のカラーのポスターを縮めたものをつけておりますが、12月18日から1月3日木曜日まで公募を行いました結果、1,003名から3,549という非常にたくさんの数の応募をいただきました。

3には命名する愛称の募集状況についてです。

裏面をごらんください。

4の命名する名前候補の選定についてです。

3,549というたくさんの候補の中から絞るのは大変でしたが、園長ほか職員4名、また、円山動物園のボランティアの方にも参加していただき、選定作業を行いました。選定に当たりましては、呼びやすいこと、今いる円山動物園のほかの個体と重複していないことのほか、愛称の意味や込められた思いなどを吟味し、20セットまで絞りましたが、この市民動物園会議において、さらに10セットまで絞り込んでいただけたらと考えております。

名前の細かい候補については後ほど説明いたしますが、ここで円山動物園アジアゾウ愛称候補一覧という資料をごらんください。

20セットありますが、こちらからよいと思われるものを1人当たり五つ選んでいただ

き、投票していただき、その結果をもって最終候補としたいと思っております。

考えていただく際に参考までにお伝えしたいことがあります。

名前の理由についてもいろいろな思いを書きいただきましたが、ミャンマーでもともとついていた名前を尊重したい、大きく変えないでほしいというご意見が26件ほどありました。一方、ミャンマーでつけられていた名前は登録されていた名前として、直接、その名前を呼んでトレーニングしていたわけではなく、新たな愛称で呼び、飼育する分には支障はありませんので、この点も考慮していただき、ご検討いただければと思います。

今後、愛称候補が決まりましたら、準備が整い次第、1月下旬から2月中旬までの期間で園内やマルヤマクラス内に投票箱を設置し、一つに絞りたいと考えております。

なお、発表につきましては、ゾウ舎オープン前に命名式を行う予定です。

それでは、A3判横の両面の資料について簡単に説明いたします。

1と2については、ミャンマーでもともとついていた名前を縮めたもので、先ほど申し上げた意見に考慮したものとなります。

3から5に関しては、アイヌ語にしたらいいのではないかというもので、すごく意見が多かったものです。ほかには、レラは風、ルルは海、ウパは雪、ポロは大きい、ミナは笑う、カイは強い、カントは天空という意味のものが 있습니다。

6から11までは、何となく和風で、漢字のものです。

6ですが、雅は美しく上品、麗は美しく華やか、姫はかわいらしく元気、煌は輝く皇帝です。

7は、真珠、優母、姫子、金太です。こちらは、もとの名前の意味を残し、発音がゾウに聞き取れるようにというものです。

8は、雅、和、桜子、尊です。これも日本の古風な名前からということと日本人の心にしみるような音と意味を込めたものです。

9は、鈴、花、蘭、円です。こちらは、もともとの名前からということで考えてくださったものです。蘭はスズランで、花は、花子など、ゾウのよくある名前のイメージです。円は円山からとったものです。

10は、紬、桜子、葵、大和です。紬は未来に向かってしっかりとしたつながりを大切にしてほしい、桜子は、桜の国日本ということで、結構多かったところです。葵は太陽に向かって成長する葵、大和は雄の強くたくましい強いイメージということです。

裏面をごらんください。

11は、秋菜、春花、小夏、勇冬です。ちょうど4頭なので、春夏秋冬をそれぞれの名前に入れたものです。

12から18までは片仮名、平仮名の名前です。

12は、札幌市にゆかりのある植物で、ポプラ、スズラン、ハルニレ、ライラックから、ポプラ、スズ、ニレ、ライというものです。

13ですが、ベガとステラは星に由来したものです。サラは姫の意味で、ドミンゴはス

ペイン語で日曜日という意味です。

14は、のぞみ、みらい、ゆめ、りくです。北海道でゾウに会えるのは道民の夢ということのほか、北の大地、明るい未来、夢、希望にちなんだものです。

15は、ゆき、つらら、しずく、りくで、北海道らしさを出した名前です。

16は、ひらり、ゆめ、みらい、しょうたです。ひらりは、花がひらりひらりと舞う花びらのようにしなやかだから、ゆめは夢を持って生きてほしい、みらいは明るい未来に向かって、しょうたは大空に羽ばたいて行ってほしいという意味です。

17は、8歳のお子さんの命名ですが、はなちゃんは長いお鼻、みみーちゃんは耳が大きい、まるちゃんは円山動物園のアイドルとして元気に長く過ごしてほしい、ミャンくんは札幌市とミャンマーの友好を願ってという意味があります。

18は、さっちゃん、ぼろちゃん、まるちゃん、やまちゃん、それぞれ札幌円山の頭文字をそれぞれとりましたということです。これもお子さんのアイデアではないかと思えます。

19と20は、ミャンマー絡みの名前です。

19のモーモーは、雨という意味があります。パールモーのモーが雨という意味で、それを二つ重ねたものです。ミャンマー人の女性は、同音2文字の名前が多く、二つ重ねることで女性っぽい名前になるそうです。ヌヌも同じで、ヌでしとやか、温和という意味があります。ススですが、スはご褒美や望みという意味で、それを重ねています。エーヤは、仏典での名前のようにです。調べてみたところ、お釈迦様の時代に使われていたパーリ語で川という意味もあるということです。

20は、ミャンマーは仏教国ですので、寺院の名前をとってつけたもので、チャウンダー、スーレー、シュエ、ボーダーで、パゴダがお寺のことだそうです。

このような候補を20セット挙げさせていただきました。

○金子議長 それでは、ここから五つ選んで丸をつけていただいて渡すのですね。

○事務局（寺島飼育総括係長） それを集計し、ホワイトボードに張り出したいと思えます。

○金子議長 それは今日行うのですか。

○事務局（寺島飼育総括係長） この場で行いたいと思えます。

○金子議長 それでは、書いた方からお渡ししていただければと思えます。

○事務局（加藤円山動物園長） 桜、桜子など、説明と名前が一部違うものについてです。

実は、桜や大地という名前がよくあったのですが、動物園に既にいるのです。ですから、それは違う方の似たような名前を当てておきまして、純粹にお1人の方のアイデアではなくっているものもあります。

○金子議長 これは、命名者には何か出るのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） その名前に決まった場合、両方が命名者になります。

○金子議長 それでは、五つ選んだ方からお渡ししていただいて、集計していただい

る間に改善勧告についての市民動物園会議からの三つの提言に関する報告についてお願いします。

○事務局（小原経営係長） 私から、改善勧告についての市民動物園会議からの三つの提言に関する結果報告をお話しさせていただきます。

資料3をごらんください。

平成27年度のウッチーの死亡事案に基づき、市民動物園会議から大きく三つの改善勧告についての提言をいただいております。

ハード面については、動物園管理センターを通し、市から改善勧告をいただいていたのですが、時間がかかるものについては、中期的課題ということで、市民動物園会議からご提言をいただいております。

左側に項目があり、3点ございます。

1点目は組織強化のあり方、2点目は人材確保・育成のあり方、3点目は開園時間又は休園日のあり方です。

細かな提言内容については、次の列をごらんください。

大きく7点ございます。

まず、組織強化のあり方についてですが、獣医療を複合的に担う専門的な組織を新たに設けるべきであるというものです。これにつきましては、獣医療体制の強化を図るため、平成28年度から、獣医師で構成される、当時、課長職1名、係長職1名、一般職3名の動物診療担当課を新設しております。

次に、人材確保・育成のあり方については、4点いただいております。

②の受験資格について、現在の高校卒業以下から高校卒業以上に変更するなど、飼育員を希望する者に対して、現状より広く門戸を開くべきであるということです。また、③については、動物飼育員の職を現在の現業職員から一般職員に変更すべきであるということです。

結果として、平成29年4月から動物専門員を新設し、受験資格を高校卒業以上といたしました。

動物専門員という新たな職を設置しましたが、この受験資格については、学歴要件は2件ございまして、大学、高等専門学校、専修学校において、動物に関連する課程、学部、学科を卒業、修了、もしくは、卒業、修了見込みの者としました。高校を卒業している者もしくは卒業見込みの者で日本動物園水族館協会加盟の動物園または水族館において2年以上の飼育業務の職務経験を有する者のいずれかが必要としております。

結果、新採用については、29年度は3名、30年度は6名、31年度は、今後のこととなりますので、予定となりますが、7名を予定しております。

続きまして、③ですが、平成29年4月から動物専門員を配置しております。飼育員は、当時、現業職員が20名おりましたが、転任試験合格者は、動物専門員に転任するとさせていただきます。

新採用職員だけでは経験が不足するおそれがありますので、当時いた現業職も、転任試験を受けることにより、動物飼育員から動物専門員に切りかえております。28年度から30年度にかけ、毎年1回、転任試験を実施しておりますが、その結果、最終合格者は、28年度が7名、29年度が1名、30年度が3名となっております。

この新採用試験と転任試験により、平成31年4月から、動物の飼育・展示業務につきましては全て動物専門員が行うこととなります。

次に、④の飼育員の増員を検討すべきであるということについてです。

動物飼育に従事する職員を、29年度には3名、30年度には4名増員しており、増員分については動物専門員を新たに採用しております。

次に、⑤の中長期的な視点に立った人材育成プログラムを整備すべきであるということについてです。

高い知見の収集や新しい技術の取得、蓄積が行われるよう、園内のみならず、国内外の他園館での研修実施や学会、研究会への参加などにより、職員の育成を積極的に実施しております。具体的には、外部講師や小管参与による動物専門員を対象にした勉強会を定期的に開催しております。

今お話しさせていただいたものは動物専門員を対象にしたものですが、続いて、獣医療についてです。

平成29年2月に締結した北海道大学大学院獣医学研究科獣医学部との連携協定によりまして、当園の獣医師が同大学の主催の講義に参加するなど、交流を図っております。

最後に、開園時間又は休園日のあり方についてでして、2点の提言をいただいております。

⑥の開園時間についてですが、一定程度の短縮を図るべきである、あわせて、現在の冬期間、11月から1月については、より適切な時期に延長するよう見直しを図るべきであるということです。

⑦の休園日についてですが、現状に加え、一定程度の増加を図るべきであるということです。

結果、動物舎の安全点検や職員の情報共有の拡充など、開園準備を万全に整えるため、平成28年4月から開園時間の短縮及び休園日の増加をしております。開園時間、休園日についてはこちらの表に書いておりです。

○金子議長 ウッチーの死亡事案については、大変不幸な事故ではあったのですが、市民動物園会議と動物園が一緒になり、三つの提言を、平成27年12月のクリスマスぐらいのときに、高井副議長と一緒に市役所に行きまして、秋元市長に手渡しました。このうち、少しでも改善できればいいなと思いつつ、市役所としてはなかなか難しいこともあるのかなと思いつつながら提言させていただきましたが、動物園の皆さんのご尽力もあり、提言をほぼ受けていただき、この内容に沿った改善ができたと思っております。この間の動物園の皆様並びに札幌市の皆様のご努力にはお礼を申し上げたいと思います。

3年がかかりましたけれども、本件につきましては、この報告をもちまして一段落とさせていただきますと思います。

本当にどうもありがとうございました。

この件に関して何かございますでしょうか。

○高井副議長 議長がおっしゃったように、事務局の努力は会議の提案以上に先を行ったと評価しております。

質問は、4月からのことです。

飼育員の現業職員20名のうち、11名が動物専門員に転任され、9名は更新されなかったわけですが、非常に抜本的な人材転換で、素晴らしいことだと思います。ただ、という事は、この4月からは、29人だったものからいきなり20人に減って、プラス新任7名となると思うのですけれども、大丈夫ですかということですか。

二つ目は、それに関連したことです。新年度が非常に重要なのだったら、開園時間と休園日について、平成31年度については特別に開園時間を10時からにしたり、16時に終えたり、休園日をふやしたりなど、チームワークを高めたり、研修をする時間を思い切ってとってみてはいかがでしょうかということですか。

○金子議長 急激にいろいろと変わっていく中で心配事も出てくると思いますが、こちらは事務局にお預けしたいと思います。

○事務局（加藤円山動物園長） 数の問題を口頭で説明すると非常にややこしいのですが、実は、今年3月末には現業職員8人が転出します。数が合わないではないかと思われるかもしれませんが、今、もともといた20人のうち、10人が現業職員として残っています。それは、ここにあるように、平成28年度と29年度で8人が転任して、30年度の春に2人が希望して外に出ております。その10人のうち、8人が転出するので。

最終合格者が3人なのにどうして8人が転出するかですが、円山動物園にいる現業職員だけではなく、過去に円山動物園で働いていたことがあり、今ほかの職場にいる現業職員も試験の対象になっていて、そこから1名が受かっているのです。ですから、現業職員から転任するのは3人ですが、円山動物園から異動するのが8人ということになります。

次に、動物専門員の数はどうかです。

8人が転出します。そして、1人は他の部署からやってきます。7人を採用しますので、数は同じです。ただ、長く動物園にいた人は半分になってしまうわけです。そこで、どううまく引き継ぎしようかと思っているかということ、1月から多目に臨時職員を入れております。最短でも6月まではいられますし、2月から採用することになるので、7月までいることになりますから、4月、5月の人が入れかわる期間は厚目に人員を配置し、引き継ぎができるようにして、今のところはそれで進めていこうと思っています。ですから、副議長から提案があったようなお休みをふやしたり、時間を短縮したりというようなことは考えておりません。

ただ、現在も行っていますけれども、大雪が降ったら除雪が間に合わないので、子ども動物園だけは30分遅らせるなどは臨機応変に対応しておりますので、動物やお客様の安全を守るため、日々の様子を見ながら進めていきたいと考えております。

○金子議長 ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、アジアゾウのことについてお願いします。

○事務局(寺島飼育総括係長) ご投票いただきまして、ありがとうございます。

結果を申し上げます。

45票のうち、最多得票は6票のものでした。6票から3票が九つあり、2票入ったものが三つありますので、これについては決選投票となります。

初めに、受かっているものを申し上げます。

まず、2のパール、シュティン、ニヤイン、シーシュで、こちらが最多得票の6票です。

次に、3のノンノ、レラ、ルル、ウパが5票です。

次に、4のノンノ、ポロ、ミナ、カイが4票です。

次に、5のノンノ、レラ、ミナ、カントが3票です。

次に、9のスズ、ハナ、ラン、マルが4票です。

次に、12のポプラ、スズ、ニレ、ライが4票です。

次に、15のゆき、つらら、しずく、りくが4票です。

次に、17のはなちゃん、みみーちゃん、まるちゃん、ミヤクくんが3票です。

次に、19のモーモー、ヌヌ、スス、エーオが4票です。

これで九つとなります。

残りは2票入ったものですが。

まず、1のパール、シュティンヌ、ニヤイン、シーシュエティです。

次に、14ののぞみ、みらい、ゆめ、りくです。

次に、18のさっちゃん、ぼろちゃん、まるちゃん、やまちゃんです。

もとの名前を残したものの2と1は似ているので、事務局としては違うタイプのものを入れたいと思っております。皆様がよろしければ、14と18での決選投票でいかがかと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○事務局(寺島飼育総括係長) それでは、14と18で決選投票をいたします。

まず、14がいいと思う方は挙手をお願いいたします。

(挙手する者あり)

○事務局(寺島飼育総括係長) 次に、18がいいと思う方は挙手をお願いいたします。

(挙手する者あり)

○事務局(寺島飼育総括係長) それでは、18を最終候補にしたいと思います。

これら10セットで投票に移りたいと思います。



ご協力いただき、ありがとうございます。

○金子議長 ありがとうございます。

楽しみですね。

この後は多数決になるのですか。

○事務局（寺島飼育総括係長） 一番得票数の多かったものが決まります。

○金子議長 どこかの駅名みたいに一番下のものからということはないようにお願いします。

それでは、議題4の新着動物等についてお願いいたします。

○事務局（黒川動物診療担当課長） 私から、新着、出産、転出等の動物についてご説明いたします。

資料4をごらん願います。

こちらは、今年の4月から12月にかけての状況となります。

まず、主な転入動物です。

昨年6月にキリン1頭を多摩動物園より導入しております。2歳の雄のテンスケになりますけれども、順応性が高く、到着時より落ちついた様子でしたので、7月から公開し、多くの皆様に楽しんでいただいております。

次に、命名のところでお話ししてきたところですが、昨年11月末にアジアゾウ4頭をミャンマーより導入しております。雌3頭のうち、2頭が親子関係で、ほか雄1頭です。現在、環境や生活になれさせるとともに、飼育のための訓練を行っているところでして、2月下旬から3月上旬に予定している公開、ゾウ舎オープンに向け、調整を進めております。

次に、搬出動物です。

10月にシシオザルの雌のディーチャン9歳を大阪市天王寺動物園に、また、11月にはボルネオオラウータンの雄のハヤト8歳を愛媛県立とべ動物園に搬出してあります。いずれも、今後、転出先で繁殖に取り組む予定でして、新たな場所でたくさんの子孫を残してくれることを期待しております。

次に、下の表に参りまして、主な死亡動物の状況です。

ニホンザルの雌4頭が5月、6月、11月、12月にそれぞれ亡くなってありますが、このうち、群れの最年長個体のなえ子33歳を含め、23歳から33歳のほぼ寿命と言える個体が循環器不全などで亡くなってあります。長きにわたりかわいがってくださったことに心から感謝しております。

次ですが、10月、雄同士の闘争により、10歳のエゾシカ1頭が右後肢を複雑骨折しました。発見から直ちに手術を行いました。既に衰弱が進んでいたことから、残念ながら亡くなってあります。

続きまして、裏面をごらんください。

主な繁殖動物の状況です。

7月にアフリカゾーンのカバ・ライオン館で飼育しておりますエランドのオペルとぷっちょの間に雄1頭が生まれております。7月末より公開し、9月には、動物園選定の候補名に対して一般投票を行い、名前をコペルと命名しております。現在、5カ月余りを経過したところですが、順調に生育しており、角が生えていく様子などを皆様に楽しんでごらんいただいております。

また、10月にはハダカデバネズミの赤ちゃんが生まれまして、5頭のうちの1頭が育っております。平成27年にハダカデバネズミの飼育を開始してから、これまで10回以上の出産がありましたけれども、いずれも1週間程度で死亡しておりまして、順調に子どもが成長しているのは円山動物園では今回が初めてのことです。

群れの中での上下関係が明確になっていないことがうまくいかなかった原因と考えられておりますけれども、女王が定まりましたので、今後は安定した繁殖ができるのではないかと期待しております。

○金子議長 こちらについて何かございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。

全体を通して何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、これで議事を終了とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

### 3. 閉 会

○事務局(加藤円山動物園長) ビジョン2050につきましては、先ほどご報告したとおり、あさってからパブリックコメントをいたします。お知り合いの皆さんにたくさんのご意見をいただくようお願いいただければと思います。また、ゾウの名前はこれから投票になりますので、こちらもぜひPRしていただければと思います。

この後、ゾウ舎とゾウの見学になります。私は公務があり参加できませんが、皆様には参加していただければと思います。ただ、私はゾウをミャンマーに迎えに行き、同じ飛行機で帰ってきました。そのときのいろいろな話があるので、今度、ぜひ時間をとってお話をさせていただければと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上